

TPPへの胎動／予兆
～NAFTA後の米国・メキシコ出張より～

平成28年6月22日

シブヤ精機(株) 常務取締役
営業統轄副本部長 二島 英郎



昨年9月から10月に掛けメキシコ・米国に出張



メキシコはN A F T A 後米国・カナダの農産物供給基地としてインフラの近代化が進展中



選果施設（P H C）は現在労働集約型であるが、市場要求により機械化の潜在性が拡大。
自動化は日本が先行するも、品質管理は準食品産業レベル：G G A P、H A C C E P



等階級選別が急速に高度化しつつある。左がAクラス・右がBクラス。



保冷库はオゾン発生装置付きで、出荷調整が品質管理とともに実施されている。米国アリゾナ



4 0 0 0 ha,経営規模で1 5 0 0～8 0 0 名を雇用。写真はスカッシュ畑、1 5 品目の輪作。

農林水産省 国際部 GFVC官民連絡協議会用資料（写真
©シブヤ精機株式会社）



収穫は人手での収穫。



一棟4haのハウスを15棟併営。本写真は高設栽培（4mレベルまで収穫）



高下駄のような道具を使用し高所収穫・栽培を行う。生産管理は1株単位（1平方フィート）



竹馬様の道具は、サンコスと呼称。管理型 3D 農業的。

農林水産省 国際部 GFVC官民連絡協議会用資料（写真
©シブヤ精機株式会社）

TPP発効後を見越して、対日双方向の農業関連インフラ高度化の需要が高まるものと推測（注：発表者個人の見解）。

1. 日本市場向けの農業関連インフラとともに、輸送コストを重視した動きが双方向で活性化する。（陸上の保冷ストレージや選果・梱包、輸送インフラの高度化要求）
2. 検疫の条件クリアとともに、流通市場からのニーズとして管理環境の整備（GGAP・HACCEP等）が輸出には必須となるのでは。技術は進んでいても品質管理目線がより重要となる。
3. 国内の従来主流である、低稼働な産地選果・専用選果では、設備投資への償却負担面を考慮した場合の、国際間競争は厳しい。国内では輸出入双方向型で物流アクセスを重視する消費地近郊臨海・臨空型の農業インフラの重要性が高まる可能性。
4. 選果・選別後の生鮮品と格別品国産農産物加工原料向けの相対価値が上がり、インフラ関連業や生産主体ともに、海外市場も合わせ見る能力（グローバルマーケティング力）が問われる。